

《5/31(木) 第55回ギャラクシー賞贈賞式》

第55回ギャラクシー賞 ラジオ部門 優秀賞受賞

新里カオリのうららか日曜日 ～被爆72年「戦後」はいつまで続くのか～

放送文化の向上に貢献した番組や個人・団体を表彰する『第55回ギャラクシー賞』贈賞式が行われ、『新里カオリのうららか日曜日～被爆72年「戦後」はいつまで続くのか～』がラジオ部門（応募92番組、入賞8番組）でベスト4となる優秀賞を受賞しました。

この番組は2017年8月6日に放送、埼玉から尾道への移住者であるパーソナリティの新里カオリが、アメリカ生まれで広島在住の詩人アーサー・ビナード、映画「この世界の片隅に」の片渕須直監督とともに、平和と言える「戦後」を続けていくために何が出来るかを考えて行った生放送特番です。

贈賞式では、ラジオ界の重鎮でもある司会の久米宏氏が、新里カオリさんを「これほどマイクの前で自然にしゃべれる人は稀有な存在」と絶賛する場面もありました。

ここ6年で大賞1回、優秀賞2回と、RCCラジオの番組力が大きく評価されることになりました。



■ GARAC選奨委員会より番組講評

「戦後」という言葉が新たな意味を持ちそうな時代にあって、中国放送は2017年8月6日に強いメッセージの番組を放送しました。爆心地・旧中島本町を歩きながら取材したパーソナリティの新里カオリのレポートの内容は的確で重く、アーサー・ビナードの知識に基づいたコメントは今考えるべきことを浮かび上がらせてくれます。映画「この世界の片隅に」の片渕須直監督のトークも訴えるものは大きいです。「戦後」がいつまで続くのか、深く考えさせられ、日本全国民が共有したいテーマの番組です。

輝かしい栄誉、贈賞式に出席した番組スタッフ

笠間英紀P・立分美優D・新里カオリさん・村山太一D・猪野竜平D

ステージ上で、司会の久米宏氏・小宮悦子氏のインタビューを受ける番組プロデューサーの笠間英紀ラジオ制作部長。

